

先生!

おじゃまします。

VOL.8

最近では環境という言葉に、破壊や悪化が続くことが多いですね。

長谷川 我々の身の回りにある自然が、おかしくなってきています。たとえば、昔はカブトムシ、クワガタ、メダカなどがいた場所に、今行ってもほとんど姿が見えません。これは、その場所であるような生物がいろんな形で生きていける本来あるべき自然、言い換えれば、生物種の多様性に富んだ「豊かな」自然が損なわれてきたということです。原因の一つは人間の社会的活動による環境破壊、もう一つが外来種の侵入です。動物に関しては「特定外来生物被害防止法」ができましたが、植物でも外来種の影響は深刻で、外来種の侵入防止と、日本の自然に元々あった在来種の保全が重要課題になっています。

研究室ではどんな研究を?

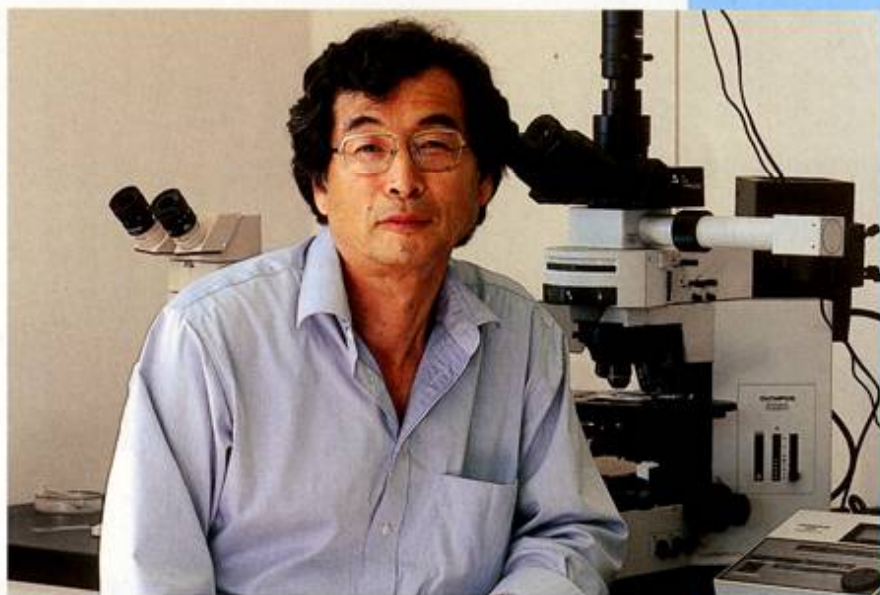
長谷川 キーワードは「植物の種多様性の保全」です。これからは社会に出てどんな職種に就いても、環境との関わりを無視できない世の中になってきますから、学生たちには植物を通して環境を見る力、考える力を培ってほしいと思っています。現在、研究室に所属する学生たちは、森林の本来あるべき姿をテーマに調査・研究するグループと、昔は普通にあつた在来のタンポポやキキョウなどの野草の分布や生育状況を調べ、帰化植物の影響を研究するグループに大きく分かれています。

先生の専門領域の
コケの研究は
どんなものですか?

長谷川 コケ植物は蘚苔類といえます。スギコケに代表される蘚類が世界中に約1万2千種、ゼニコケに代表される苔類は同じく8千種ほどありますが、実はもう一つ、ツノゴケ類というグループがあり、これが私の専門です。ツノゴケ類はまだ正確にわかりませんが、世界にわずか百数十種しかありません。というのも、調査や分類が済んでいない種が、まだ世界中にたくさんあるからです。日本のツノゴケ類の調査・分類は、私がほぼやり終え、今はアジア・アフリカ産の標本を研究しています。私が研究生活を送れるのは、あと十年ぐらいでしょうが、その間に私自身の研究として、このツノゴケ類の分類だけはやり遂げたいと思っています。

ツノゴケ類のどんなところに
興味を引かれますか?

長谷川 ツノゴケ類は非常に小さなグループですが、私は植物が進化して約4億年前に水中か



ツノゴケ類にロマンを感じ、
生物多様性に富んだ自然を愛する

長谷川 二郎 教授
Jiro Hasegawa

環境造園学部地域環境学科 環境植物学研究室

広島県生まれ。中・高を東京で過ごし、鹿児島大学に進学。京都大学大学院時代にライフワークのコケと出会い、博士課程修了後、南九州大学へ。植物の生活と分布、環境植物学実習・演習などの講義を担当。

植物や環境について学びたいと
考えている人たちにメッセージを。

長谷川 フィールドでコケを観察していると「何かの役に立つのか」とよく聞かれます。確かにコケがどうなるかと、人間には痛くもかゆくもないでしょう。でも、小さなコケでさえそこで生きていけるのが本当に豊かな自然であり、人間にとっても良い環境であることは間違いありません。小さなコケも人間も、何億年という進化の歴史を背負って、共に今、生きていくわけですから、自然を見るときは、そういう視点を忘れないでほしいですね。

増田 祐子さん

環境造園学部地域環境学科4年
(愛知・安城農林高校出身)

先生は会議の予定も忘れれば、物の置き忘れも結構多いです。でも、それに気づいてあわてる様子や、講義中に板書する時、左手がいつも胸の高さで招き猫の手のようにしているのが、とてもかわいいんですよ。

駕屋 雄大さん

環境造園学部地域環境学科4年
(長崎・諫早高校出身)

先生は絶対シャツの第一ボタンを留めず、リーバイスのジーンズとコンバースをはくという、独自のスタイルを崩しません。学生がその格好をすると「今日は長谷川スタイルで決めたね」などと表現します。



北井 昭裕さん

環境造園学部地域環境学科4年
(神奈川・中央農業高校出身)

先生は学焼酎のロックが好きで、お酒が入ると学生相手に熱い説教が始まります。でも、メカには弱く、実験室の機械類のメンテは学生任せ。携帯を持たないのも、使い方が分からないからだという噂です。

奥左から/磯山敦彦(茨城・筑波高校出身)、窪田尚子(愛媛・東温高校出身)、宮崎健太(大分・大分高校出身) 手前左/原 知巳(福岡・筑陽学園高校出身)

こんなことをやっています。

【長谷川ゼミの活動】

植物種の多様性の保全をテーマに掲げる長谷川ゼミでは、研究対象の植物を調査するために、フィールドワークが必須。山歩きに耐えられる体力も必要だ。今回登場してもらった学生たちは、北井さんと磯山さんが「綾の照葉樹林の植物群落構造」、原さんが「葉上苔類の分布と生態に関する研究」、増田さんと窪田さんと宮崎さんは1982年に行われた小学校の校庭の雑草の調査データをもとに「宮崎県における帰化植物の侵入状況に関する研究」を行っており、綾の照葉樹林や県内の小学校の校庭などで調査活動を行っている。

長谷川先生のお気に入りアイテム



◎ピンクのソファ

ゼミ生がたむろする植物学実験室の床に、ベッド仕様にして広げられている。卒業するゼミの先輩が「ソファはいりませんか」と言うので、引き取って見たらこれだった。研究活動で遅くなったとき、仮眠をとるため愛用しているとか、学生たちももちろん利用している。

◎リーバイスのジーンズとコンバースのスニーカー

ゼミ生たちも認める「長谷川スタイル」に欠かせないアイテム。ともに愛用歴は中学以来で、先生の制服といってもいいぐらい。「丈夫だし、汚れてもいいし、山歩きやフィールドワークに便利だからはいているだけ」らしい。

